特I — 278

本草圖譜

本草圖譜 巻之廿八目録 一 堂園閣成

本草圖譜巻之廿八目録

蔓草類

天門冬	すべるぐさ	二
百部	ふとつら	四
一種	特生の物	六
一種	たまぶうき	
一種	雄なる物	
草薢	とかいろ	
一種	特生の物	
一種	苗葉小なる物	
一種	アスベルチイ	
一種	きじかく 雌なる物	
何首烏	うけかつら	
一種	さいたくらさ	

一種　菊葉とかろ
一種　をふとかろ
一種　蔓生の物
一種　へいけす
土茯苓　さんきらい
一種　漢種の物
一種　むかごとかろ
菝葜　さるとり
一種　圓葉の物
一種　むめさるとり
一種　葉中斑なき物
一種　からすきぐ

本草圖譜卷之廿八

東都　岩崎常正　著

蔓草類

天門冬　すぐるぐさ 延喜式　すまろくさ 和名鈔　たりかつら
すぎかつら　アスパラキスピノシユス 荷蘭

春月宿根より生ひ葉ハ杜松或ハ杉の葉ニ似て細く一節二三葉對生し莖蔓を引根ニ近き處ニ逆刺あり蔓一丈餘木上を纏ふ葉間ニ小白花を開き小圓子を結ふ南燭殼子の大さにて白色あり根の形萱草ニ似て白色指の大さ長さ二三寸味ハ苦し堀採て蒸て皮と心を去り藥用ひ

一種

特生の物

特生の物なり蔓をなさず
一根叢生にして備急本
草の漢州天門冬なり

百部　ひとつら　本草和名

古へ和産なし享保年中漢種渡り今世に多し二種あり春宿根より生じ葉は
山藥に似て小く一節に四葉對生し葉の中に花を開く四瓣緑色にして紫色を
帯ぶ實は圓らで扁く人参子に似て尖れり一種葉狹く小なる物あり二三葉對生し
鄙樵通志に葉似薯蕷と云又蘇頌の説に似竹葉と云是なり明和年
中舶来する物は根長し長崎にて細葉と云これ蔓生なりといふ

一種　苗葉小なる物

一種　特生の物

特生の物あり蔓をなさしに高さ一尺に過に直立に葉に茴根に似て四葉對生根上に花あり四瓣緑色にして紫の斑あり蠟梅の花に似たり一種苗葉小く一二寸なるものあり以上の品皆根ハ天門冬に似て稍短く味ひ苦し延享年中舶来せる百部に苗を帯ふ物あり即ち特生なりと云

一說 アスベルチイ

一種
たまぶうき

一種
きじかくし
雌なる物
一種
雄なる物

一種　さうちく　しゝかくし　アスベル　チイ（アスハラキユスの誤称なり）

時珍の説に鄙樵通志に葉似薯蕷者謬なりと云ハ却て非なりこれ百部を知さるなり時珍の説に有細葉茴香と云是なり春月宿根より生じ初生小指の大さ形竹筍の如く荷蘭人これを食べと云長きれハ枝を分ち葉を生じ小茴香に似て粉緑色又きしかくに似て稜なく圓し高さ四五尺葉の間に小き淡黄花を開き天門冬の花に似たり根ハ百部に似て塊なし

一根　たまぶうき

形状しゝかくに似て苗低く一尺許にて斜に向ふ花の形もしゝかくの如くにて淡紫色下垂す長さ根数條なり

一種　ぎしかくし

一株に叢生し高さ一尺許形しゝかくに似て葉に稜なりて絲杉に似て軟なり小白花を開き圓實を結て紅色南燭の如し一種小にして四寸にして葉細密なるものなりしゝかくし以下の品ハ皆天門冬の類に属し百部の属にハ非じ

何首烏　うゐかつら（本草和名）　つるさくだこ（武州豊嶋郡）

漢名一名苦蔞（郡武府志）　桃柳藤（何首烏録）

交莖　野苗（同上）

武州江戸近郊人家播籬に多し春月宿根より生じ苗蔓延じ初生紅色葉ハ山藥に似て厚く背紅紫色蔓一二丈木上に引秋月葉の間に穗をなして形白花の虎杖に似たり實ハ三稜ありて蕎麥の如し根ハ甘藷に似て硬し赤褐色なれ雄にして赤何首烏なり其根白色なるハ雌なり白何首烏之又和名にかしらと云食料とする物ハ漢名黄獨（鎮江府志）なり

草薢

漢名一名山硬々 温州府志　硬饅頭 江州府志

とかいろ　あまとかいろ 信州　もちとかいろ

ひめとかいろともいふ山城名産なり信州戸隠山奥院にあり春月宿根より生ひ葉は薯蕷にも似て初生四五葉集に附て後蔓をなし長さ数尺葉の間に穂を生し小黄白花を開く根横生にして蒼朮の如く細し蒸煮て食へは味甘し少し蕎味あり初生は蔓をなさゞるもあるゆへ特生草薢と呼ふ

一種　さいとうくさ

京のさいたうに多く生ひ初生は特生後蔓をなし其蔓一丈餘に及ぶ花穂あまところと同し葉は花叉なりて蝙蝠の如く根は小指の大さにて白色髭なくして軟なり味淡し以上二種上品にて川草薢なり

海芋
海芋

一種

一種　菊葉ところ

葉五七尖ありて形菊葉に似たるものなり深山に生じ根味苦し　蘓頌の説に葉作三叉と云是なり

一種　むかごところ

葉ハ五七尖なりて苗短く葉の間に零餘子との如き實を生するものなり

一種　をにところ　ゆまところ　にかところ

諸國山野に多し葉蔓も山藥と一般但葉潤し又葉に白き斑なるもなり根上の蔓に逆刺なり蘓恭も莖有刺云り葉間に穗をなし六瓣にて淡黄色の小花を開く後三稜ある莢を結ぶ山藥の莢と同し此本草原始に山草薢赤而堅硬と云是なり根指の大さにて鬚多く硬くて味苦く下品なり

菊葉ところ

菝葜　さるとり 和名鈔　さるとりいぐら 京
みづくいくら 和泉　ワさんきつら
わらぐい 備前　老佛頭 福寧府志

山野に多し條蔓薔薇いらに似て堅く刺あり葉圓にして三縱道あり葉毎に兩の鬚あり夏月枝の梢に六瓣の小き黄花を開き秋月實あり紅色あり根の節に塊りありて硬く形狀土茯苓に似て紅色硬し又嫩葉に紫色の斑あるもあり

一種　蔓生の物

蔓生にて條軟く葉は菝葜に似て正圓なるあり花毬をなして六瓣小黄花を開く根は土茯苓に似て大なる塊をなす

一種　圓葉の物

一種　へいけず

特生の菝葜なり條直立し高さ一二尺鬚なく葉は菝葜より挾し花は同し此は枝荒本草の山梨兒なり

一種　ひめ菝葜

苗至て矮小三五寸葉甚さ小にして小豆の大さ形虎刺ありて小似たり花は六瓣黄色にて小なり根は蔓の如く土中を引處々苗を生ず

蔓生の物

菝葜

ゑめさるとり

土茯苓　さんきらい　ラーデキスシー子　羅甸

シ子ースヲルトル　和蘭　岐良　本草新編

和産なし享保年中漢種渡り今多し蔓細くして枝を生し緑色葉の間に細き鬚を出し纏に葉ハ竹に似て厚し深緑色光澤なり枝間に小紫花族生し毬の如し葉の中に斑なる文斑なきもなり根ハ菝葜に似て圓く皮褐色肉淡紅なり時珍の説に東山經を引て其葉如拂と云是なり又救荒本草野譜に載る圖是なり

一種　葉中斑なき物

一種　漢種の物

是又漢種なり莖特生にて蔓をなさゞ葉ハ前種より濶し中斑なく根ハ前種と同し時珍の説に類大竹葉と云是なり

葉ハ山藥ニ似て深緑
色光澤なり葉の間ニ細
鬚なり蔓長さ一丈餘夏
月六瓣の紫の花を開
き毬をなし根ハ大にして
木の如く柿葉の物より
大なり味ひ甘く微渋し

本草圖譜卷之廿九目録

蔓草類

白歛 二
一種 つるかねさす 四
一種 ちんせうつる
伏雞子根 七
黄藥子 八
一說 あぐ 十一
女萎 あまんづる 三
一種 野州日光山の産 五
一種 尾州の産 六
山豆根 いちやだ乎し
白藥子 九
會州白藥 附録 物印忙の圖 十二

宮内省圖書寮

突厥白	同	十三	一種 同
威靈仙	くまいさう	十四	一種 花穗岐生正氏物 十五
一種	肥後の産		鐵脚威靈仙 なさくすま 十六
一種	ゆきなとし	十七	茜草 あかね 十八
一種	ひめあかね		一種 特生の物 十九
一種	きなたさう	廿	一種 きくのぐら

本草圖譜卷之廿九

東都　岩崎常正　著

蔓草類五

白蘞

和産なり。享保年中漢種渡り今傳へ栽す春月舊根より生じ葉は初生の地錦に似て長すれば雞桑葉に似て蔓紅色別に葉間より三寸の細蔓を生じ紆へ其先夏月小白花を開き秋月實を結ぶ生は青く熟しれば白色數顆族生す根の形王瓜に根に似て硬く何首烏の色に似たり淺赤く肉白し

女萎　がたんつる　わらすて　からゝき

山野にありて宿根より生ず葉ハ大蓼藍に似て細き鋸歯あり一茎二葉対生し蔓細くして長く夏月四瓣の白花を開く又大蓼に似たる葉も開くせ小さし

一種　つりがねさう　うつむきそうさう　江戸

山野にあり春月旧茎より葉を生ず茎ハ蔓にあらず時に生ず葉ハ秋牡丹に似て白毛あり穂をなして花を開く四瓣白色形羅摩の花に似たり後白絮となり稍白頭翁に似たり薬味の辛く蘇恭の説に大常謬以為白頭翁者是也と云ハ是物なるべし

女萎
おんなづる

一種

野州日光山及ひ駿州富士山中ニ産ス葉ハつりかねさうニ似て花紫碧色なり

一種

ちんせうづる

山中ニ於テ春月宿根又舊蔓ヨリ葉ニ生ス形鐵線蓮ニ似て浅き鋸齒ヲ葉間ニ兩對ニ花ヲ蒼ハ色ニ形ヲ如ク開ク時ハ質鐸ヲ如ク四瓣ニ下垂ス外紅紫色内ハ白色ス

伏雞子根

蝦夷の地ボロイツミヤマる産する物なり葉圓にして尖り形剪秋羅の花の似て短葉對生し莖の紅く蔓延す根は小なる芋の如し褐色なる物恐らく此ならん歟

一種

尾州より来るかのあり三葉にして狹く花四瓣白色大なり

山豆根

いまいや
だんすし 肥後

みま
ふがき 紀州

まめのね
かづらの

肥後葦北郡釘野村山中同
國益城郡仁王木山中紀州
勢州豆州天城山下田上総
ほかのすし山等の暖國の山中
ゆゑ春月舊蔓又宿根より
生じ蔓一二尺大豆葉の似て小
く厚く冬凋まじ夏月穂を
して白花を開く形苦参花に

黄碧色地に下して能生じ
根は黄褐色にて母指の大さ
一尺許りなり

似て實は形桃葉珊瑚に似て

和産未詳かならず物
印花の此形に似る
ものなり葉蒴藋つゝ
又前胡にも似て根の大
黄の如く黄色なり時
珍の説に葉大如掌
長三寸許其根長者
尺許長者圓二三寸外
褐内黄と云に似る

黄藥子
コスチュスパルセム

白藥子

フレイヲニア シデリチヽス

和産未詳なれば物印帀の圖の一節の四葉對生して沙參の如く蔓生葉間の白花あり實の圓なれ夾すなり根正圓なれ土卵の如く褐色なり此物糠麥の說の三月生苗似苦苴四月抽赤莖長似垂盧蔓六月開白花八月結子亦名瓜蔞根皮黃色と云是なり

一說

あぐ　つちくり 江州　かすみぐ 神田氏

あぐ 紀州　あぐくり 江州　アピヲス 荷蘭

加州播州其餘山野に於て春月宿根より蔓を生じ葉初三葉長すれば五葉形小豆葉に似て夏月穗を出して花あり淡黃色赤小豆花に似たり後二寸許の莢を結ぶ生は綠色熟すれば赤褐色根は筋の如く土中に引て處々塊を生じ何首烏に似て短く圓し味ひ淡甘煮て食ふべし又三葉の物なりまたする姓こつあと州にたれば三葉のあとなり此蘇頌の說に江西出者葉似烏桕子如綠豆至六月變成赤色と云是なり

會州白藥　附錄　フレイヲニアアフリカナ

和産未詳ニ云ヘ西洋ノ書物印忙フレイヲニアの類なり葉の西氏絲の似て小く又白藪の似て小黄花を開き小瓜の如き實を結ぶ藏器の說に葉如白藪と云是なり

突厥白　附錄　メコアカンナ

和産詳ニ云ヘ物印忙の載るものの是の近し葉の薯蕷の似て蔓生花の牽牛花の似て紅紫色實の鱗甲なりて大なり馬志の說の苗高三四尺春夏葉如薄荷花似牽牛而紫上有白稜と云是なり

一種

物印忙の形狀同じて白花の物形狀いはまの似て花異なれり

突厥白

會州白藥

威靈仙

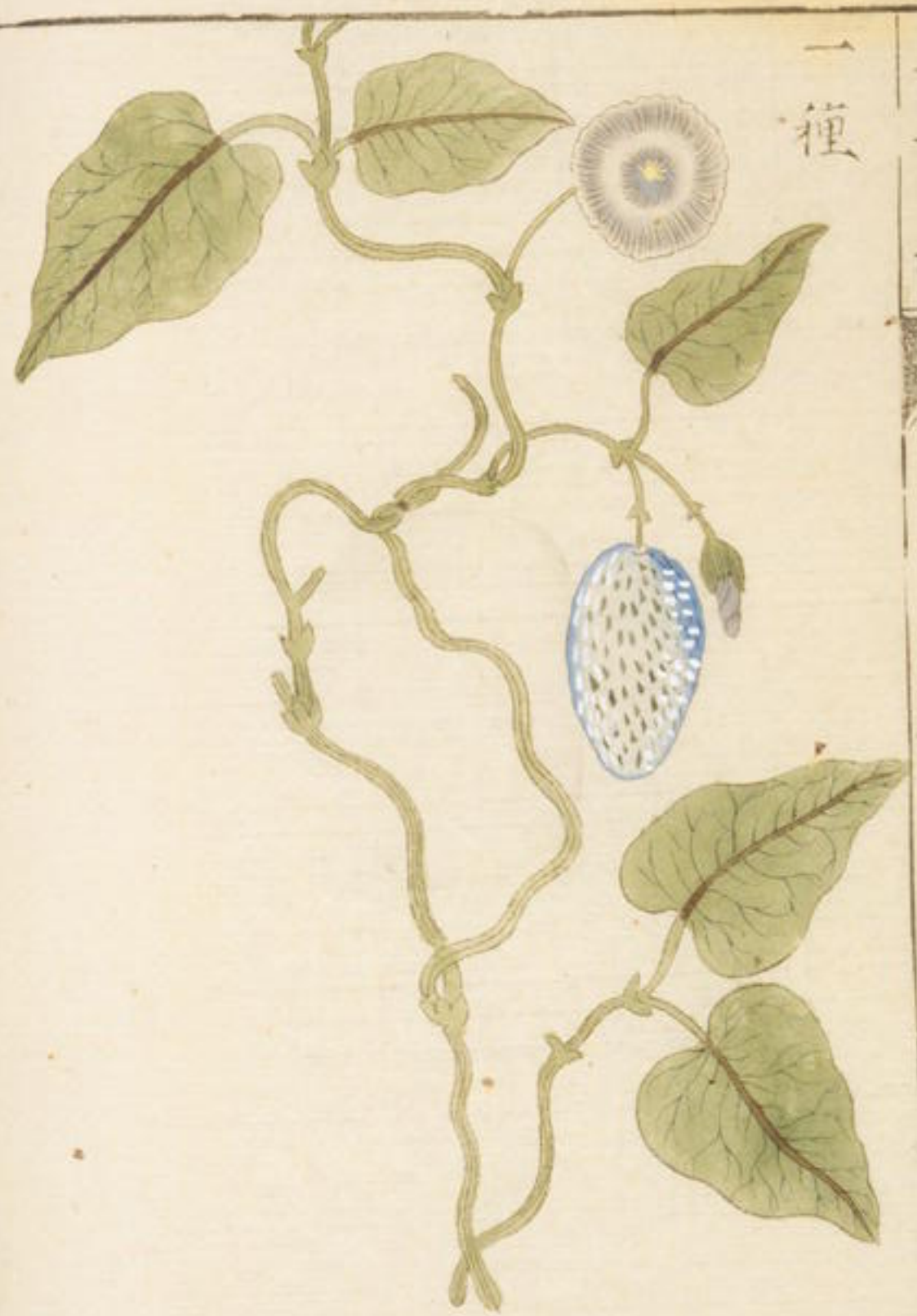
くがいさう　しらのみ　越前　くるまさんしち　加州

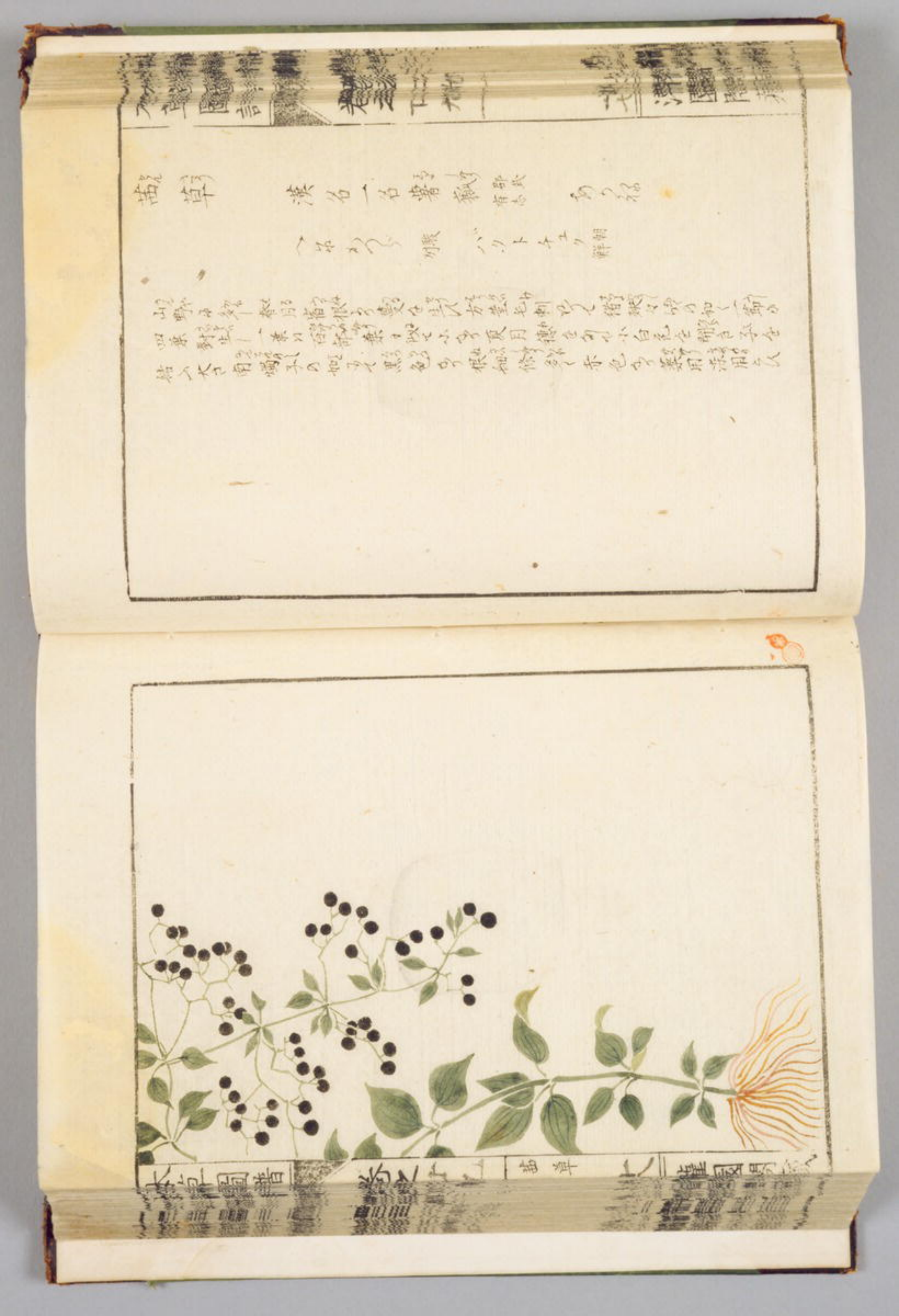
江州佐州野州日光山にあり春宿根より生じ葉は桃の葉に似て八九葉一節に對生し車の如く八九層あり秋月稍穗になり形兒児苗の花に似て淡紫色穗に峡を分つ物あり又白花の物もあり根は數條あり細辛に似て長く蘇頌の說是なり時珍は鐵却威靈仙等を以てこれにあてて蔓草類に入るは誤なり諸本草の圖は載る處皆蔓草に非ず

一種

肥後及び奥州の産は葉短かして毛茸あり花淡紫色にして備急本草の圖の並州威靈仙なり

一種





一種

ひめあり禄

ひめむしろ

土茜草 清俗

山野に多し葉は猪
狹々ぎぬに似て短し
根又赤色甚細し

一種

特生にて蔓をなすこと物あり深山に生じ一節に四葉對生して圓く深緑色高さ一尺餘夏月梢に穗を生じ小白花を開く根は蔓生の物より肥ふり枚荒本草に載る土茜草の圖は此一種にて八葉對生する物なり常州筑波北條邊紀州淡嶋の路にありと云り

一種

きねだきぐり

猪牙草 清俗

野列日光山ニ
あり葉四葉對
牛花小ニ
淡黄色なり

時生の物

一種 きつかぐら くるまつぼ 日光

形猪殃々ぜんなりに似て特生穂をなして小白花を開く

本草圖譜卷之三十目録

蔓草類

血藤 附録	はるむめのどき	二	一種 細葉の物
一種	白實のつるむめのどき	三	剪草 くき茶らん
防己	あをかつら	四	一種 漢防己
一種	かつかつをかつら	六	一種 おかつらかづ
一種	ますのをかつら	七	通草 あけび
一種	ミつぞあけび	九	一種 むべ

通脫木	舶來二品	
一種	圓葉の物	十三
倒拭藤	うらぬつら	十五
白英	ひよがてりおもすご	十八
同	ちりぶき	十二
釣藤	かきうつら	十四
白兎藿	いけま	十六

本草圖譜卷之三十

東都　岩崎常正　著

蔓草類六

血藤 附錄

洗るむめもらき

處々山中に多し杜仲の屬にて蔓生なり藤蔓一丈許木の如く葉は圓にして尖り淺き鋸齒ありて梅葉に似たり夏月小き黃白花を開き後圓實を結ぶ又杜仲子に似て小く殼綠色裂るときの裏黃色仁紅色なり

一種

細葉の物

嫩葉は狹く柳葉の如く長し
少は杏葉に似て長し二種とかに
根黄赤色茜根の如し蘇頌の
說に葉如蘘蘭葉根如大
拇指其色黄といふ是なり

一種

白實のつるむめのごとき

武州八王子山中にあり葉はつる
むめのごときに似て小く稍毛茸ゆ
ゑ蔓は地錦ゆゑに似て鬚多く
樹皮に粘着し實相似て白色
なり根又紅黄色にして長し

剪草 ちや茶らん

二月頃宿根より嫩生す圓茎紫色節あり葉は対し白芷の葉に似て小く又茗葉に似て又小く一節に二葉対生し七八寸に至る四月茎の梢に白色絲の如き花を攅生す根は茜草の如く又細辛の如く香ひあり

防己

あをかつら

つゞら 蝦

つゞらふぢ

山野に多し藤蔓冬も凋まず緑色葉は牽牛の葉に似て大なり山人此蔓を以て籠をあむ夏月小花攅生し秋月黒子を結ぶ薬店賣る處の防己是也根は褐色にして長く切れば車輻紋あり此本草綱目に圖する處の條防己と異なり

漢防己の近頃唐種渡り今官園に多し春月宿根より蔓を生じ葉の烏臼木に似て互生し夏月葉の間に小黄花を族生し條根土中を蔓延し處々長き直根を生じ形烏藥に似て軟かなり是を切に車輻解明かならし蔓の冬月枯る根は枯す稍寒を恐るとれ本草彙言及本草原始に圖する處の瓜防己なり

一種 かうりやうかつら

山城國貴船山中武州川越山中信州勝州にはり葉の蝙蝠の形に似て又玉瓜からの如くして黄緑色毛なし夏月小黄花穂をなして下垂し根は筆の管の大きなりて黄色土中に引別に堪りを生じ

一種　たすのはかつら　いぬつら 紀州熊野　メイニシペルムン 荷蘭

豊後鶴崎遠江紀州等暖地の産にして寒を恐れ葉は圓らして葉中に莖附て荷の葉又蓴菜の如く大さ掌の如く深緑色にして光澤ゆ夏月葉間に小さき淡緑色の花毬を出して開く根は母指の大にして皮黒し此葉用ふべし

通草　あけび 和名鈔　たたりかつら 紀州

山野及び人家播籬を纏ふ蔓葉四時凋ひ葉は一莖五葉對生して人參葉の如くにして圓く堅く深緑色鞍馬山の名産木の竹漬と云此嫩芽也と云四月頃房をなして一花三四瓣族生して下垂す紫色にして細辛の花に似たり又白花もあり房の中に一つの大なる花あり これに實を結ぶ形木瓜ゆに似て軟熟するときは紫白色自ら裂て肉あらわる味美なるにして野木瓜心の如し山人採り食ふ核黒色蔓大なるは大指の如し伐れ細竅ありて車輻紋あり上下氣通ぐ今清朝木通をは皆通脫木を用ゆ幅一二寸薄く片にしてつるがのなり白色にして木を削るが如し

一種　こうぞあけび 戴後

三葉のあけびなり蔓はあけびと同じて但一莖三葉赤小豆の形にして鋸齒ゆりて菊葉に似たり花實あけびと同じ又大葉の物をからあけびと戴後云

通草
ありび

通脫木

舶来二品

一種

圓葉の物

釣藤

漢名一名牛角花 臺灣本志

かぎかつら

つりぢりかつら

ふじとりかつら 寺島三才圖會

紀州熊野豆州赤澤山及び青野房州臺等の暖地の山中にあり藤蔓年を經るものの樹の如く三四月新葉を生じ紅色嫩莖の方なり葉の山茶に似て薄く對生し一節の釣二つ次の節の釣一つなり其釣鬚ありて曲り魚を釣針の如し土人魚を釣枝梢葉間の小き花を生し圓毬をなし四五分あり黄茶色なり後楊梅の如き實を結ぶ

いけまの山野にあり春月宿根より生じ葉は蘿蔔物に似て圓く圓莖對生し蔓長さ一丈に及ぶ穗をなして小白花旋生じ又蘿蔔に似て實莢をなし形絲瓜に似て短に又蘿蔔に似て奥州出羽松前蝦夷地に産じる物は根大枯骨の如く油に漬て金瘡を治し蘇茶の説に苗似蘿蔔葉圓厚莖有白毛與殷草異用藿療毒有効と云是なり

白英　ひよこりしやうご　ゆべさんたらし　梶

山野播蘿の邊に多し春月舊條又宿根より生じ葉は菊に似て鋸齒なく五尖ゆり毛茸多し葉の莖を以て物に絡ふ秋月枝間に房をなして五瓣の白花を開く形龍葵花の如く實は紅色にして大さ龍珠の如し釋名に時珍の説に白英謂其花色又集解に開小白花と云是なり然るに一説にまるだのあるしを充るは誤なりまるだのひよこりしやうこの花紫色なり蜀羊泉なり

本草圖譜卷之廿一目録

蔓草類

蘿蔴（らま） かぐみ 一
一種 二
赤地利（せきちり）一種 つるそば 三
紫葛（しかつ）
烏蘞苺（うれんが） ゑきごつり 四
一種 つるのまちや 五
葎草（りつたう） かふむくろ 六
一種 ぐらたふさう 七
一種 くらだむくら 八
羊桃（やとう） 物印忙（くいんまん）
絡石（らくせき） いたつな 九
一種 ちりめんかつら

一種	せきたかつら	十	一種	もつやきかつら
一種	はるくちゐ	十一	一種	きらゐかつら
木蓮	いたゞ	十二	一種	ゑひさい
一種	こづた		地錦	はく
扶芳藤	まさゐのかつら	十五	一種	ちまさき
一種	おほつるまさき	十六	一種	まさき
一種	やまるだまさき	十七	一種	長葉まさき

本草圖譜卷之廿一

東都　岩崎常正著

蔓草類七

蘿蔔　一名蛇頭草 醫法指南　かゞみ 本草和名　ちがいも

かくいも　むらひ 羽州米沢　くさぬんや 江戸　とんがのち 羽出

救荒本草に羊角苗と云春月宿根より蔓を生じ葉は女青の葉に似て厚く軟かにして淡緑色の斑あり深緑色圓莖對生莖葉を摘ハ白汁出づ夏月蔓長さ一丈餘葉の間に小房を生ず五瓣の小花を開く粉紫色又白花黄花等あり後角を結ぶ絲此ハ似て少く二ツに裂ハ中に白茹ありて木綿やたんの如し褥にとんに入る此茹血を嫩角胡麻油にて煮て食へし蔓の皮中に糸あり釣糸に用ひて強し根煮て食ふ味甘し

蘿蔔

一種

尾州木谷氏圖せる處なり葉狹く角短くして裂るときハ毛の付たる實あり形蘿蔔の如し

赤地利一種

たるそば

山野に實より生ひ葉ハ蕎麥に似て長く淡紅の細花を開く形又蕎麥に似たる赤地利ハ根に塊りあるものなれハ此草一年生にして根塊りなれハ但一種とせるのミ

紫葛

野州日光山信州木曽山中に有り
藤蔓葡萄の如くにて長大葉
も葡萄に似て岐るゝ葉ありて
地錦つゝの如く厚ナ背淡紫色
毛茸なり花穂を有る赤葡
萄の如し根紫褐色にて長し

烏歛苺　一名五龍草　醫貫　奇方　ひさごつる　和名鈔

ひんかるつる　かづらし　へびうど

人家藩籬に多し春月宿根より生じ初生紅紫色漸淡緑色となる葉ハ人参に似て一莖五葉なり一葉ごとに鬚ありて物に紆に夏日梢に花房を生じ上平にして數花なり四瓣淡緑色實ハ熟して黒色大豆の大さなり根ハ淡紅色指の大さ中に引處々苗を生じ

一種 つるあまちや

山野に多し春月宿根
より生じ蔓緑色葉烏
薮苺に似て緑色梢小
なり小白花を開き稍
小黒子を結ぶ茜根子に
似たり根白色筋の如し
蔓の梢地に入て根と
なる此救荒本草の
絞股藍なり

葎草　一名蛇麻 興化府志　うるむぐら　さてくもうつら 周防

山野に多し春實より生ひ嫩苗ハ細長葉對生し蔓長さ七八尺毛刺多く葉ハ楓に似て五尖なりて對生ひ蔓一丈餘末に穂をなし小淡黄花族生ひ形尋麻に似る此雄あり又穂鱗甲をなし松毬の如く緑色の葵を結ぶ物ハ雌あり

雄

雌

一種

かうしなるさう

甲州奥州南部野州日光山及ひ蝦夷地にあり春月宿根より生ひ葉ハ葎草如く刺あり葉

圓くして尖苧麻似り對生ひ秋月梢に房をなして花あり葎草と同し是雄なり花ありて實なし根ハ苧麻根の如く圣中に引て苗を生ひ根甚柔軟引く切るし縵織物に作るへき物之

一種

くはだむぐら

葉三尖ありて蒸の如し是雌なり莢をむすぶ

羊桃

チユルベ・チユム　チユルヒト　荷蘭

和産詳ならず物印忙の圖に一種特珍の説に似たるものなり然否を知て載て以後の考を俟蔓肥て葉互生

葉圓して粗き鋸歯あり葉の間に五瓣の紅花を開き実は桃の形少て緑色

絡石

いはつな　万葉集

ていらかつら

さんのつの　尾州

山中自生あり細莖蔓生木石を絡に四時凋ずして葉は胡頽子にたゝに似て稍々對生し莖葉白汁あり夏月に花あり五瓣白色香あり後細長の角を結ぶ長さ六七寸一蒂二角或は四五角連生しるもあり紫褐色中に白糸あり時珍の説に云ふと云是なり又稚長葉の物柳葉かつらと云

ヒンカベルヒンカ

ヤークデハルム

荷蘭

一種 ちりめんかつら

葉絡石よりふくして皺あり花實共に同し

一種 セきたうつら 山城

山中の木石に貼して形状絡石に似て少く夏月は緑色冬月に至れば紅紫色なりしれ藏器説とするの石血なり

一種

もつもきかつら

葉ハていりかつらより濶水蠟樹に似て深緑色嫩葉白色あるべもつもきかつらと云花ハ▲

▲前條と同じ實ハ一蒂両角下垂長さ一尺許り

一種

つるくちる

丁子りつら

藤蔓絡石の如く葉ハ山梔子に似て少く花も亦山梔子に似て小るり白色黄心實亦細長の角あり

一種

たらのかつら

たらのふかつら

人家稀に栽藤蔓にやとく兼
厚くして節脉亀甲紋を多し
四時凋さて

木蓮

一名巴山虎 丹鉛總緑

いたみ 日本記

きまんぢ〳〵

いたびかつら

木蓮人家稀に栽蔓に鬚ありて木石に粘着し年を經る物ハ根樹の如く葉ハ柯樹に似ると厚く光沢あり白汁出づ蔓の梢枝の間に花なくしてく實を結ぶ形無花果いちに似て狹く長く母指の大さ熟すれハ紫黑色中空にして細き子皮の裏に附き味ひ甘し

一種　ゑめひたい

蔓細くして木石に貼し細葉二三分にて皺あり年を經る物漸蔓指の大さ此實花なくして結ぶ形木蓮と同じ

一種 こつた

蔓細くしてゐめひたいと同じ
但葉は四五尖ありて地錦にゐる似
て小ゐり實又ゐめひたいと同じ

地錦 附錄

法名
あづた
こうよらづた

處々山野に多し多くハ柏樹に貼ひ蔓に鬚あり其先の花樹の皮に粘するおと守宮の手の如し嫩葉ハ三の尖あり長すぐハ葡萄の如く梢に夏月淡黄色の小花攢族し實ハ蛇葡萄に似て少く青黒色なり秋深にして葉紅色に染む

扶芳藤　一名扗芳　まさきのうつら　つるまのをきき

山中の樹に貼ひ形ハ絡石に似て葉ハまさきに似て狹く小く對生し

一種

おまさき

形状つるまさきに似て蔓にあらず特生なり

一種

おわつるまさき

尋常のまさきに葉ハ似て稍狹く小木ハ特生長すれバ蔓を生じ木皮に貼ひ

一種

まさき　くろぎ 西国

志ゝふれ 上總

人家播籬とみ
れ葉冬青に似
て圓く淺鋸歯
あり春月梢の
葉の間に小白
花を開く實は
柿に似て
少く圓く裂れ
ハ紅き子ならひ
る

一種

まるだまさき

圓葉の物

本草圖譜卷之廿二目録

蔓草類

常春藤	いつまでくさ	一	一種　もみじづた　二
千歳藁	さんかくづる	三	忍冬　すいかづら
一種	肥後の産	五	一種　ひらふたんわく
甜藤	ゆきかづら	六	一種　特生の物　七
含水藤	ぎゅうおやのこづ	八	南藤　きんま　九
省藤	とう	十	紫藤　ふじ　十一

高橋圖書館

一種	八重ふじ	一種	野田ふじ　十二
一種	白花　十三	一種	きふじ
一種	あらふじ　十四	一種	土用ふじ　十五
藤黄	ゑのこう　十六	同	
牛嬭藤	きぶよらん　十七	一種	きわりらん　十九
斑珠藤	つるぐゝ　十九	一種	大葉つるぐゝ　廿

本草圖譜卷之廿二

東都　岩崎常正　著

蔓草類八

常春藤　いつまでくさ　きづた 山城　ふもづた

山野に多く蔓に鬚ありて樹皮に粘ぬ葉は牽牛に似て小く厚し深緑色光澤あり又五尖にて綠瓜へちに葉の如きもあり又圓らで防己葉の如きもあり變葉一ならぬ長すれは枝に圓長葉族生し小白花毬をなして開く實は山豆の大さ熟すれは黒色八角金盤ちの實に似たり毒あるべし

一種

もみじづた

藤蔓形状同ゑて
但葉五尖まさ八
尖ありて箕峯楓
トもの葉に似たり

常春藤

千歳藁　さんかくづる

勢州讃州高松三河鳳来寺山中に於り藤蔓葡萄の如く嫩葉は三尖にして葡萄に似て小く梢葉は岐なく圓にして一尖浅鋸歯あり形白楊に似て紫色を帯ふ背淡紅色節より鬚を生じて物に紆ふ夏月小花を開き秋月實なり形蘡薁に似て初紅紫色熟すれは黒色大豆の大さ味甘し根は長くして葡萄の如し蘡頭の説に處々有之藤生蔓延木上葉如葡萄而小四月摘其莖汁白而味甘五月開花七月結實八月採子青黒微赤冬々惟凋と云是なり延喜式に千歳藁あまつらと訓す今詳なれは和州のあまかづらの類なるべし

忍冬

すいかつら 本草和名　すいくかづら 播州

わきつかつら　ペリクラメス 荷蘭

舊蔓年を經て枯す木上に蔓延に春月葉を生に小連翹に似て深緑色對生に根上の嫩葉は菊の葉に似たり初夏葉の間に花あり二瓣初白色後黄色に変に故に金銀花の名あり味ひ甘し一種紅花の物あり初紅色後黄色となる

一種

肥後の産は蔓をなすに葉大にして厚く莖に毛茸あり花も亦大なりこれを又花戸を唐忍冬朝鮮忍冬とも云以上二種實一蒂二子連生に南燭子の大き熟して黒色なり

一種

ひとつ
たんぢく
木忍冬
金銀木

樹生の物なり蔓をなさに灌木なり葉は忍冬に似て夏月葉の間に五瓣の白花を開き一日を經て黄色に変に實は一蔕二子熟して紅色なり或此實毒ありと云然に木半夏なるに誤て食せし者ありしに毒にあたらに

甜藤　甘藤附録

ゆきかづら　つるてまり　あまさけかづら

野州日光信州木曽山中に多り藤蔓鬚ありて木皮に粘着に葉圓く歯歯あり亀甲の如く對生し枝梢に花毬を生に中に小白花白蘂集り開き圍りて四瓣の白花を開く山人此蔓を爛其汁を呑味甘きこと醴の如し故に名つく又蔓細く葉小なるものあり

一種

蔓をなさに特生するものあり形状ゆきかづらと同し但鬚を生して樹皮に粘貼に

舌甘
藤

一種

特生の物

含水藤

ぎやうだやのみつ

木曾山中に多り藤蔓千歳藁つたくて又葡萄に似たり脚葉は蘡薁に似て小く花又あり梢の葉は三尖なりてさんらんづるの如く莖葉紅色を帯ふ山中にて行者渇する時水なければ此蔓を切水出るを呑味淡甘といふ

集解の説に合ふ

含水藤

ぎゅうぢやのみづ

南藤

きんま　葯簪と同名

天保四巳年琉球の産なり物薩州より江戸へ来る蔓生きんまに似紅色葉ハ山草蘚ころに似て小く落葵ニ似て薄ムて茎紅色ニ未花實を視す是真のきんま又ふうとうかつらなし風藤に釋名に見也和漢通名なり齊民要術交州記を引て扶留有二種一名獲扶留其根香美一名南扶留葉青味辛一名扶留藤味亦辛といふ

省藤

一名　桃竹（竹筍之條）　桃枝竹（同竹）　萪藤（齊民要術）

沙竹（西域聞見錄）　藤竹（齊民要術）　とう

カンナリパクウェット（羅甸）　ロッテインク（荷蘭）

和産なし先年生草の渡りし時寫生あり形状碧蘆の如く幹に竅なく實して攪竹の如く葉は竹葉に似て莖細く線の如くにあり物に纏ふこと貝母葉の如し又攪竹の一葉の如し幹を包て葉を生じ寒を恐て拈る尾州水谷氏寛政己未秋摂州池田より京都へ持来る高さ二尺許竹葉に似て厚く光澤あり葉の先曲りて釣の如しと云拈たるものは舶来多く諸の器物に巻に用ゆ此物省藤に的當に非じ赤藤紅藤と云紅赤なる物なり又片々自解となれとも　とうは刀にて割されは自ら解す物に非じ然れとも醫學正傳に理省藤の名あれは此属なるべし西域聞見錄に沙竹似葦而無節實心為用甚多と云

紫藤

一名招豆藤 開寶本草

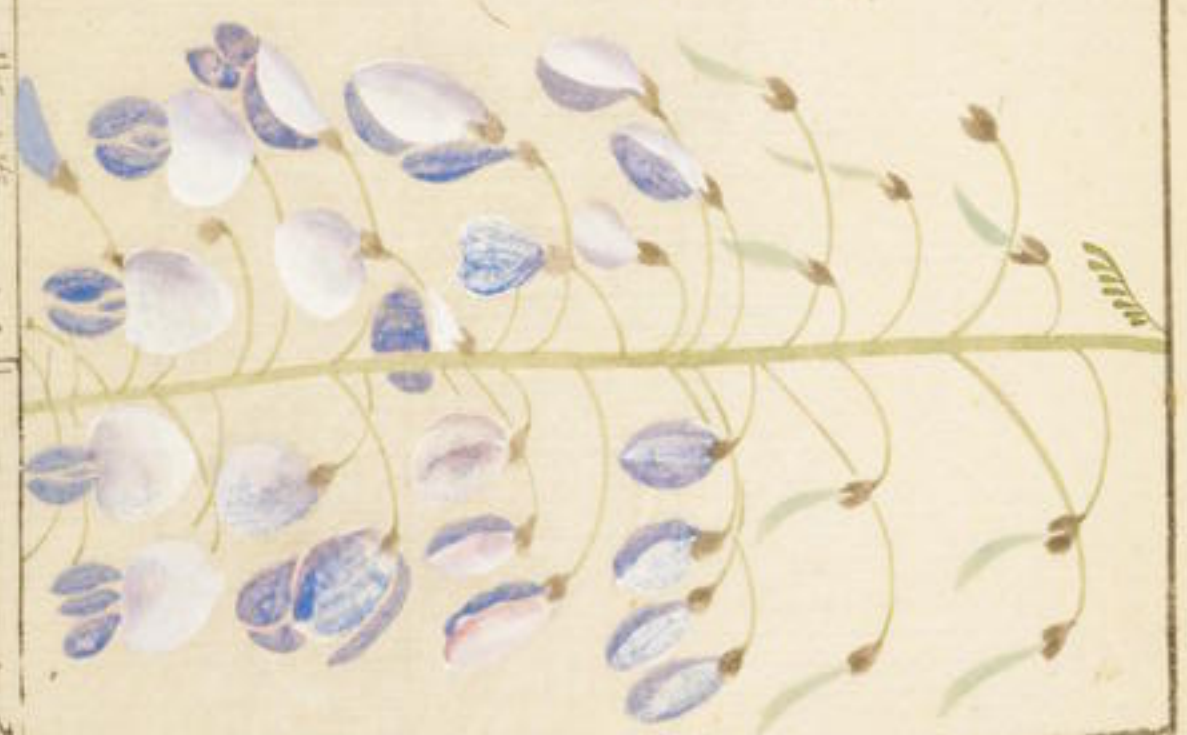
まつみぐさ 藏玉集

むらさきくさ 藻塩草

ふじ いとふじ

わかふじかつら 共小長門

野ふじハ山野自生多し藤蔓樹の如く葉ハ無患子なしに似て莖長く圓莖豆生し四月枝稍ニ穂をなし下垂るなり三四尺花ハ蒲豆ふじまめに似て紫色後角を結ふ黎豆をもやらこまめに似て長し



一種

八重ふじ

南蠻ふじ

藤蔓紫藤の如し葉も又似たり但花千瓣深紫色なり

一種　野田ふじ

摂州野田の産なり花稍小く穂長きたかく四五尺

野田

一種　土用ふじ

葉蔓共ニ細ク短し夏月土用中ニ花あり白色形紫藤ニ似てふし

藤黄　しゐらう

雌黄は石なり
是と異なり

和産なし林娜斯小圖説なりカムボチヤキユタボームと云此樹喬木にして一二丈葉厚く對生し花四瓣黄色白蘂あり實圓くして中に隔ありて数仁なり熟すれば黄色味酸く食ふべし此類二種あり葉圓く實味ひ甘きものあり此者真臘記を引て國有畫黄乃樹脂香人以刀斫樹枝滴下次年收之といふ是なり又一種物印忙に圓あり形霸王樹に似て細長く周りは疙の如き葉なり又龍骨木に似て圓く蔓生なり共に廣東新語の黄藤なり彼國の人此汁を採て藤黄を製す舶来の中にて辨天様と称する物上品なり禹家の用となし

一種

ヱウホルビア
ラテーリス 荷蘭

物印牝所載此物よりも藤黄を採る

牛妳藤

牛妳藤

牛婢藤　きぶよらん　京　ふようらん　江戸

肥後阿蘇郡豆州房州等の暖地山中に有り形状蘿藦に似て冬凋まれ葉圓くして一尖なり杜衡の如く花實も蘿藦に似て角短く按するに救荒本草の牛婢菜にふようらんと此條名同くして又救荒を主とり食物とすることくなれば恐らは同物なり

一種　きわうらん　勢州

きぶよらんの長葉の物なり

斑珠藤　つるぐミ

野櫻桃の一種にして蔓生なり葉ハ柯樹に似て小く冬凋まず枝幹長く末蔓をなして逆枝あり冬月四瓣の黄白花を開き夏月實を結ぶ圓にて梢長く紅色にして白斑點あり味ひ酸甘し蔵器の説に生山谷中不凋子如珠而斑冬月採之味甘と云に似たり

一種

大葉つるぐさ

本草圖譜卷之三十三目録

水草類

澤瀉	さくしゃ おもだか	一	一種 ひらおもだか 三
一種	まるもおもだか	四	一種 武州落合の産
蔛草	こつるのき	五	一種 みづあふひ
一種	白花の物	六	一種 紅花の物
羊蹄	ぎしぎし	七	酸模 すいば 八
一種	尾州の産	九	麕舌 附録 ふるまり 十

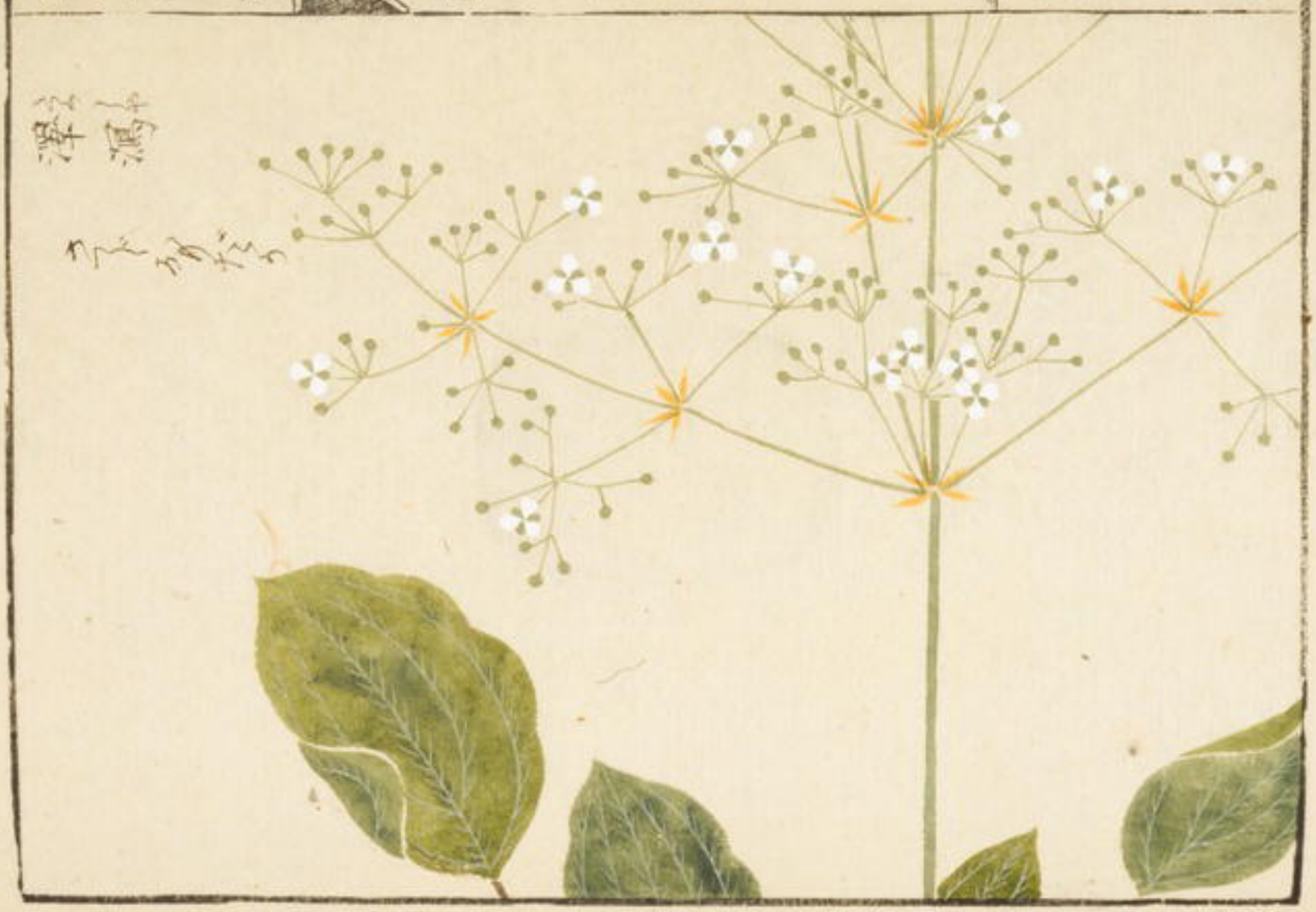
澤園圖書館

一種　流水中に生ずる物　十一
一種　武州三河島稲荷森の産　十二
菖蒲　あやめぐさ　十三
一種　ありすがた　十四
一種　ふじてせきあり　十五
白菖　せうぶ　十六
香蒲　かま　十八
一種　れんぎやく　廿
龍舌草　みつかあぎと
一種　狹長葉の物
一種　やうろう
一種　かつらいせきあり
一種　ひろうど
一種　かはせきあり　十七
一種　ひめかま　十九
菰　まこも　廿一
苦草　せきせうらん　廿二

本草圖譜卷之三十三

東都　岩崎常正　著

水草類



澤瀉　なまい　本草和名　なつこ　新按正　おらおりぐつ

さしおりぐつ　澤芝　正誤　水蓉菜　救荒本草

奥州の水澤中に生ず葉は車前に似て圓く莖長く横紋あり秋一莖を抽ず枝の末盡く三枝をなし花白色三瓣形野茨菰の似て極て小なり實は蜀葵の似て小く葉の味ひ淡苦く根は別に塊を生ずるにあらず根株を用ゆ乞多く味ひ鹹し仙臺より馬る物上品なり又唐種を植て生ずるにあり形状此と同し

一種　えらおりだう　あぎなし　おりぐつに似てあらずしまつに名づく

處々水澤に生ず形状さしおりだうに似て狹く又紫蕚に似て象く狹く花實根形同しこれ本草原始の水澤瀉なり

一種　まるまたおりだう

池澤に稀に生ず葉は浮薔に似て硬く光澤ありて薯蕷に似て深緑色花は澤瀉と同し

一種

武州落合邊の流水中にあり葉叢生し燈心草の如くにて短く三寸軟なり根株塊あり

蘇草　なぎ 和名鈔　みぎなぎ

水澤中に生ひ初生の澤瀉に似て小く深綠色光澤なり漸く長ずれば竹栢に似たり秋穗を成して花あり六瓣青碧色後小き角を結ひ下に向ふ冬月の苗根拈る

一種　みぎあらひ　浮薔 三才圖會

即ちみぎなぎの大なる物なり葉大なりて圓く花も亦大なり白色淡紅花等もあり

本草圖譜　卷之三十三　蘇草　龍國閣藏

蘇草

みづあふひ

一種 白花の物

一種 淡紅花の物

羊蹄　表　まづかき 和名鈔　ぎしぎし

和大黄

水濕の地に多し四時葉あり形蒼蓮菜しやに似て長く又酸模に似て緑色夏月高さ三四尺穂をなし花三瓣淡緑色黄葉あり實は三稜ありて蕎麥の如し根は大黄に似て黄色稍癬なり功も大黄に似て力劣れり

酸模　まいだ　まんだ 江白　すめのたかま 上總

田野堤等に多し宿根より生ひ葉は羊蹄に似て短く圓ひて初生紅色夏月莖高さ二尺許り形羊蹄に似て紅色根は羊蹄に似て黄色味ひ酸し

一種

尾州より來る物酸稍小く葉蕎麥に似て花實尋常の物に同し

酸模

一種

尾州より来る物

麕舌 附錄

えるもしろ 枕の草紙

えるもし 江戸

えりこ 信州

えりのの 津輕

かるうばら 羽州 茶澤

しきつな 蝦夷

眼子菜 救荒本草

天童草 豫藥集

夏月水田中に多く生じ竹葉に似て短く光澤あり水面に浮み又秋くして二三分なる物あり皆莖細ふして蔓の如く互生し秋月穂を生じ水上に出形馬藻註に似たり六月嫩苗を採陰乾にして未にて服せば食傷宿酒を治す事妙なり又藍の苗を加て尚良し功稍麕舌に近し

一種

流水中に生ずる物根水底にありて生じ葉甚細長毛髮の如し漸水面に浮みたるかと同し

一種

流水中ゟ生ずる物

齏舌

龍舌草

みはあきがほ
たなあぎこ 江州
みばあこり 筑前

夏月實より水田中に生じ葉は車前に似て薄く水中にあり秋月水上に出て花を開く三瓣大さ四五分白色微し淡紅を帶ふ實は三稜ある莢を結ぶ時珍の說に根似胡蘿蔔と云ふは令さるれば一種ならべし

一種

武州三河嶋稻荷森水田中に圓葉の物あり形浮薔薇に似て薄く花は同し

一種

狹長葉の物

菖蒲　あやめくさ　本草和名　吹喜草　藏玉集

せきしやう　ホウヒユアコリシユス　羅甸

溪澗水側に生じ葉は馬蘭に似て狹く四時凋れず潤さ三分長さ一尺餘平にして光澤あり兩邊方なり根は節ありて蜈蚣の背に似て緑色肉茂紅く良香ありて味ひ辛く夏月葉の中央より穗を生じ鼠の尾のまゝ鱗田ありて實を石間に栽れば生ず荷蘭の說に水かとり傳染病に口に含めば免るゝ疑ひ有し又眼の昏暗に滴入れ

一種

やうろう

濃州養老の麓に産す水側にはゆく根長く並葉直立し脊腹共に根を生ずるものは他處にても亦両根にある事なり

一種

ありまかり

有柄川家漢土より種をもちよせられ今世上に多く根は横に生し葉は直立す汝南圃史に福建蒲細長而直とかの是なり

一種

かうらいせきしやう

葉濶さ一分
長さ三四寸
陸地の石上
に生ひ

一種

あらでせきしやう

かうらいせき似て乗
先蕋の細なるを
軟なる文化年中
清商呂宏昌
なる者西湖の邊
の石蔦を持渡る
唐山にて蕋様石
蔦と呼ぶ木邦
の品を選ことなし
これ汝南圃史
小泉別蒲茂短
而黒と云是なり

一種　ぶろうどせきせう

是にちぐさより変生したる物なり長さ四五分大さ銭の如し是金銭沙角圓尺なり又別に玩賞の品に黄金と云は黄緑の間道のみ全く黄色なるを云ふまた云晝夜に面緑色脊は白色雪山は葉先白し残雪に本白其餘品類猶多し

白菖　あやめぐさ　せうぶ

端午に簷へ挿むまへのきあやめとりゆふ泥中に生じ葉の濶く長さ三四尺飯脊あり冬に枯る根肥大にて節あり腥氣なり稀に葉の側に實なり樅のこの毬に似たり

一種　わらせきせう

山中自生あり四時濶まひ石菖中にて肥大なる物なり形状石菖と同し是時珍説そこつの渓蓀水菖蒲なり

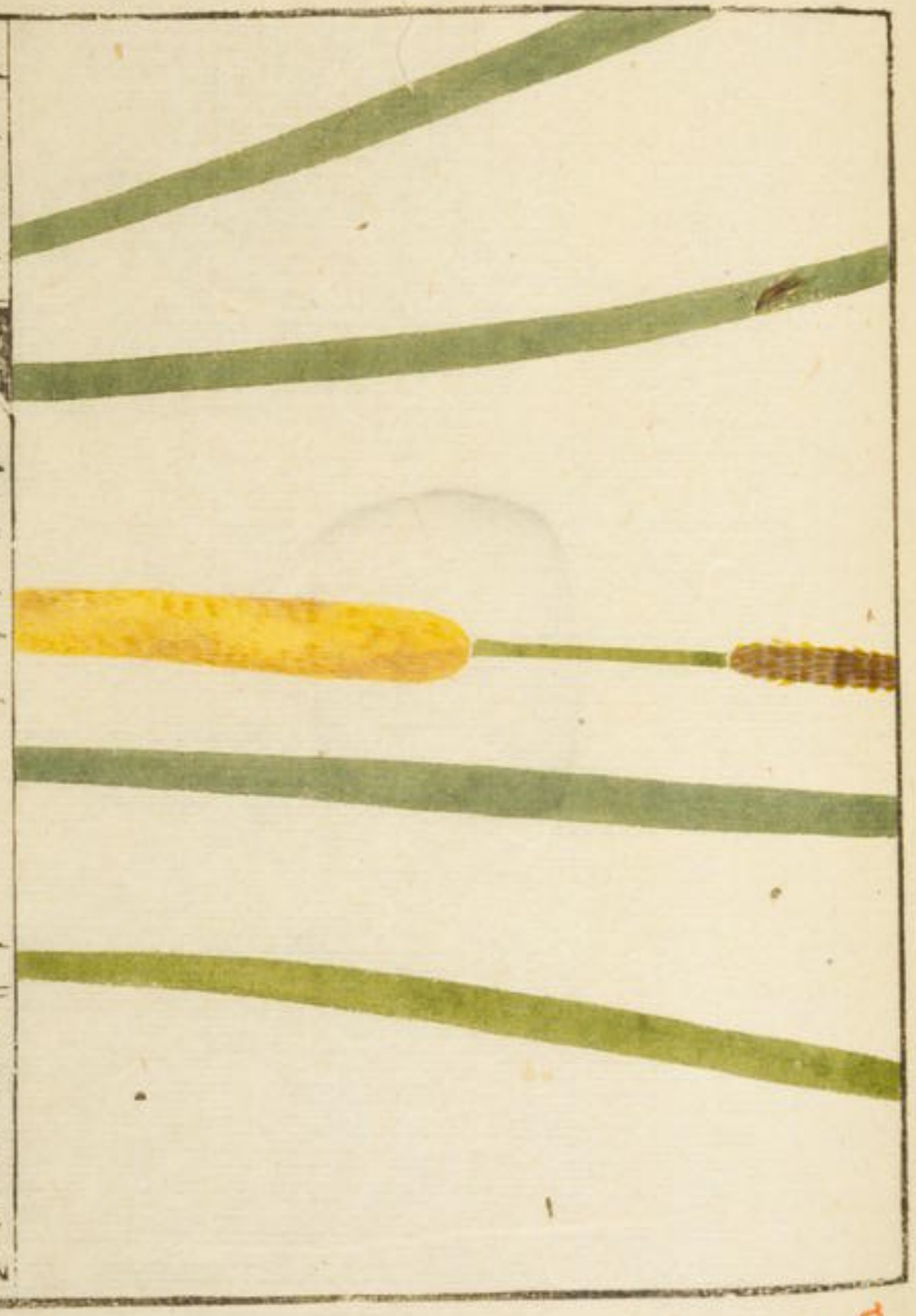
香蒲

みはくさ　めかま　えめかま

まんぢゆ 福山　シキナ 蝦夷　蒲黄草 附方

雎 救荒本草　醮 同上

水泥中に多く春月宿根より生じ水似葉に似て濶さ六七分高さ四尺許六七月莖を抽て五尺許穂を生して圓く大拇指の大さ三四寸此を漢名蒲槌一名蒲棒 救荒本草 云其上花あり黄粉ありて風にて散れ即ち蒲黄なり蘇頌の説に蒲黄即花中黄屑也とかゝ是なり實熟せば黄赤色乾して火口に造る又白茅なを集て火口に製し根の白色大指の大さなり



一種　まんだやく　備中

水蠟燭　廣東新語

奥州十有の産
なり形状ひかがま
の似て硬く一方凸
なり此ものなり

○

織して席を造るに
云漢名端州蒲
席　嶺南雜記云是
秋月花穂を生じ
蒲黄少く蒲槌
二層を生じ

菰

ナツモ　和名鈔　かほこくき　藏玉集　ちまきくき　仙臺

まこも　ちなうつこ　八雲御抄　ウンチヤキナ　蝦夷

アリエントリイト　荷蘭の一種

水澤中に多く春月宿根より生じ嫩苗竹筍の如く長ふ所に高さ三四
又萩莖に似て長し秋月莖高さ四尺許り穂を生じ形蘆に似て粗く
淡紫色奥州の産は實の大さ一分許り兩頭尖りて米の如し即ち菰米一
名彫蓬　商雅　なり大和本草に沙菰米は菰根の粉なりとして云り秋時根上の

傍に筍に似たる物を生じこれをこゝろほの　和名鈔　今かんぷると呼ぶ即ち
菰首なり其筍熟したれは中に灰に似て黒色なる物ありこれをまこもぼし
又まこもかぼしといふ即ち烏鬱なり婦人髪に塗るものなり

菰
まこも
奥州の産

烏鬱
菰米

苦草

せきせうしも 江戸

江湖の淡水中に生ずる物の香蒲の葉に似て先圓くてつゝの如しまつるてつゝもしろ云鬚根あり水底に生じ又鹹水に生ずるものの葉の周り茅やの如くまつるもちゝきりもしらん又てつゝもしらん

本草圖譜卷之三十四目録

水草類

紫背浮萍 時珍 うきくさ 一
一種 えんじゅ 二
一種 たふうきくさ
蘋 ちやえんじゅ 三
萍蓬草 かたちぬ 四
一種 ひめかたちぬの 狹葉の物
青萍 附方 あをうきくさ
一種紫萍 集解 あかうきくさ
一種 さんしょうも
田字草 時珍 通名
一種 えめかたちぬ 五
一種 へにかたちぬ 六

宮内省圖書寮

一種　なんきんねぢわぬ
一說　睡蓮 集解　ふつじんき
一種　プロムペンウアトルレリーン入
菩菜　あきで
一種　あろあきて　十
蓴　ぢゆんさん
馬藻 集解 時珍　やなきでも　十一
聚藻 集解 蘓頌　ふんぎてうも
一種　たちも　十三
一種　たちもの小なる物
一種　まつも　十四
一種　あびも
一種　牛尾蘊 救荒 野譜　十五
一種　水豆兒 救荒 本草　みがんぢ
一種　まつもの小なる物　十六
馬尾藻 集解 藏器　あんだわら　十七

一種
一種
一說　大葉藻 集解 藏器　りしねぐき　十九
海蘊　りづく
海帶　ぢんめ　廿
一種　裙帶菜 食物 本草　わかめ
一種　黑菜 清俗　あらめ　廿一
昆布　こぶ　廿二
越王餘算　うみかんざし　廿三
石帆　うみすぎ　廿四
一種　うみやなぎ　廿五
一種　白色骨の如き物
一種　うみまつの小なる物　廿六
一種　うみまつ

一種 羅紋をなすてる物 廿七

一種 うすきつきたこの 黄色の物

一種 うすきつきたこ 廿八

水松 みる 廿九

本草圖譜卷之三十四

東都 岩崎常正 著

水草類

水萍 紫背浮萍 時珍 たゝ稀なし うきつゝき

ワートルリンセ 荷蘭 水花 釋名 本經

水白 釈名 別録 水蘇 同上

夏月池澤及ひ田中に生ひ水面に浮ひ三葉一顆をなし四五葉生すれは自ら分る葉の下に鬚の如き根あり大さ二分許うすせ正圓葉面に光澤ありて背は紫色なり

一種

青萍 陰方

あをうきくさ

葉稍小く隋圓にして面背共に緑色なり

一種

えんじゅ

品藻苔 通雅

水面にありて水上に出つ一莖三葉にして品の字の形をなす葉に尖りありて米粒の大さなり

一種 あかうきつき

紫萍 集解時珍引萬畢術 滿江紅 雜草部

田澤中に多し栢葉に似て尊く夏月は緑色にして秋月に至れば紅紫なり葉舗にて是物を浮萍と名づけ賣れば誤なり医家自ら採擇みべし初生緑色なるとの煮て食べし

一種 さんしよう

水田中にある物山椒通の葉に似たり故に名づく華夷考に引韓詩沈者為蘋似槐葉而連生則紫と云是也

一種 ちゝうきつき

形銀杏の葉又胡蝶に似たり是紫萍の一種にして紅色に染うるものなり

蘋 すつぽんのかゞみ

こちかゞみ かへるのはす

ちやんしゝ 水鼈 菩薩集解時珍引庚辛玉冊

池澤中に生じ葉は一の缺刻ありて杏葉に似たり背は水沫の如き物ありて水上に浮ぶ根は水中にはり秋月花を開く三瓣白色形野茨薇の如し實は赤小豆に似たり時珍田字草通を充るは誤なり吳普花白蘋恭大者名蘋と云は田字草通にあらず

田字草 清俗 通名

破銅錢 釋名

池澤に生じ高さ二三寸一莖四葉田字小字の形に似て花後實を結ぶ赤小豆部に似て扁く小なり

萍蓬草　骨蓬 和名鈔　川骨 和方書　かはちぬ

たいこのぶち 花の形

カバト 蝦夷　子イムパ 羅甸

プロムペンウアトルリーン 荷蘭

池澤の水中に生じ根の形獸骨の如くにして水底にあり葉は水上に抽じ花は五瓣にして黄色形金絲桃に似て蘂短く實は尖にして山梔子の形に似て長し又流水深き處にあるものは葉水上に出ずして水藻の如し又昆布の如し花は水上に出て開く

菖蒲

かきつば

一種
狹長葉の物
勢州宮川に產し
一種
えのかたちね
花葉尋常の
物に異なれば
短小一尺許なり

一種
へなかたちね
葉に赤かすと
ちねに似て花
紅色なり

一種

なんきん
かたつ花

葉ふく菩薩ゆゑ
に似て花小なり

一說

睡蓮 集解時珍引北戶錄

瑞蓮花 嶺南雜記

午時蓮 花曆百詠

これん 大和本草

睡蓮花 同上

朝日蓮 赭鞭錄

金銀蓮 八種禹譜

池澤の水中深き處にあり宿根より生じ葉の菩薩ゆゑに似て大に稍紫色を帶び莖至て長し夏秋の間花あり十二瓣にして外の四瓣は淡綠色内の八瓣は白色なり末の刻水上に出て花を開き日入て水中に入る鬚根なり

一種

子イムハ 羅甸

プロムペンウアトルレリーン 荷蘭

物印忙に載る處の物

菩菜

あさで 和名鈔

ちるぢゐんさん

水澤中に多し宿根
水底にありて春生
し葉は杜蘅に似
て薄し莖水中に蔓
延し一節に二三葉對
生し夏月葉の間に五
瓣の黄花を開き水
上に出花瓣の邊に
毛ゆり

一種

ちろあさで

總州の池澤に產し
葉は水鼈の形
に似て根は泥中より
生し夏月葉莖より
花を生し五瓣白色
鋸齒ありて畧菩菜
に似ゝり後小き
實を結ぶ

蓴

ぢゅんさい　ぬなわ　大和本草に沼縄の意へ

缺盆草 附方　露葵 釈名時珍引顔氏家訓

大和本草に城州嵯峨の大澤伏見宇治の池に多しと云り諸國古き清水の池にぬり春月宿根より生し水面に浮く葉は蓉葉あきに似て圓く缺ゆく莖は葉の中心に附り根は細き縄の如く赤褐色泥中に延引し夏月水上に出て花を開く瓣細く紅色なり莖葉嫩きときは粘滑あり

水藻　かはらも　かはらも　かはらもも

江湖池澤の水中にある物の總名を云なり

一種　馬藻 集解 時珍　やなぎも　さつも　ながも

菹草 校荒本草

春月水底より生し葉は柳葉に似て長く周邊に皺あり水上に出稍に一寸許りの穗を生し水上に出て小碎花を攢簇す形眼子菜に似たり細葉長さ一寸許りの物あり

一種　聚藻 集解 藻頌　ふさも　きんぎょも　ぐぢやんも 江戸

江湖池澤の水中皆あり莖微紅色にして長さ三四尺毎節細き枝葉莖を還て對生し莖の頭に長き穗を有て淡紅花を開く金魚鯉鯉に鄭仙等好て卵を著る物なり

馬藻

やなぎつも

一種　たちも

武州下石神三宝寺の地邊にあり根は泥中にありて莖葉水上に出繁茂す形聚藻に似たり

一種　たちもの小なる物

稲田中に生し特生にて高さ二三寸葉の間に小き淡紫花を開く

一種　まつも

形状蓬子菜に似て軟かなり

一種　あおも

形状まつもに似て濶く毎節四五葉對生し

聚藻 みそつも

たちくも

一種

牛尾蘊 枚莧 野譜

野列日光山大日堂の池中にあり形まつりに似て秋月堂に抽し水上に出立瓣の花を開く白色にて梅花の如し

一種

ミつんね

水豆兒 救荒本草

下總の中山邊の流水中にあり葉は小茴香通名に似て短く枝の岐に小黒子の如き物あり夏月穗水上に出て花を開く柳穿魚に似て黄なり

一種

まつもの小なる物

形状まつもに似て毛の如く二三葉對生する物

海藻

總て海水中に生ずる草を云

馬尾藻　集解　藏器

なのりそ　万葉集

ぢんめさう

ぢんむさう

あんだまら

形状馬藻に似て緑色に微し黒色を帯び長さ三四尺葉の間に花実なり

一種

津輕の產にて葉馬尾藻に似て質堅く色黑く鋸齒あるもの

一種

津輕の產

葉密にて柳に似たるもの

一種

津輕の產

莖葉共に細くして糸の如く實馬尾藻に似たる物

大葉藻

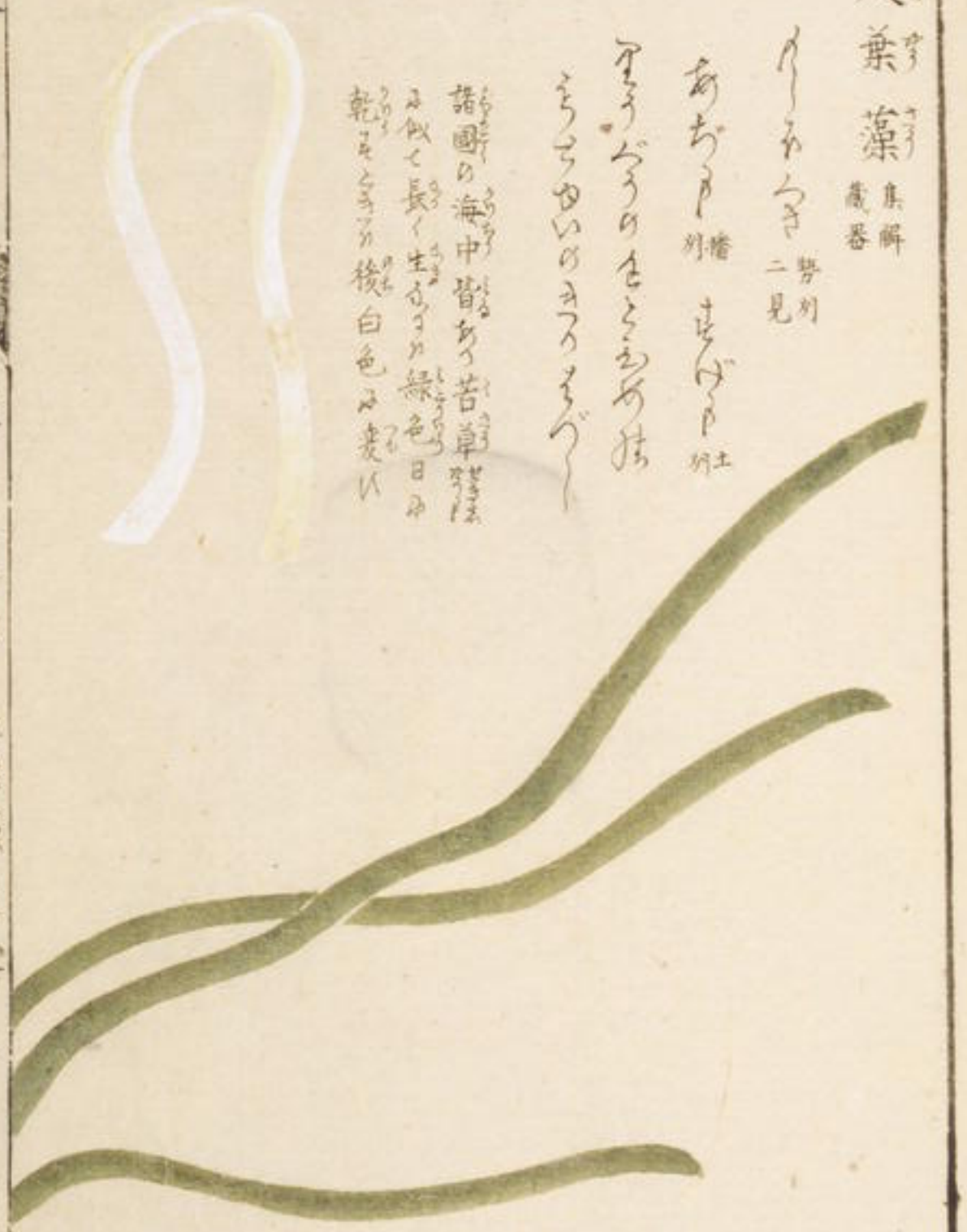
集解 藏器

[illegible] 勢州二見

[illegible] 播州 [illegible] 土州

[illegible]

諸國の海中皆あり苦草[illegible]に似て長く生ずれ緑色日に乾[illegible]後白色に変ず



一種

津軽の産

葉大にして澤蘭に似て色黒きことの

海蘊

りづく 和名鈔

りうそく 京

四國及ひ志州尾州諸國の海中に產し毛髮の如く長さ一二尺にして小枝あり綠色にして黑色を帶ふ粘滑あり

海帶

ぢんめ 奥州

おそめ 南部

みつわかめ 仙臺

奥州南部の海中に產し潤さ一寸許り甚長し日乾せば白き粉を生じ鹽氣あり故なり

一種

わかめ

裙帶菜 食物本草

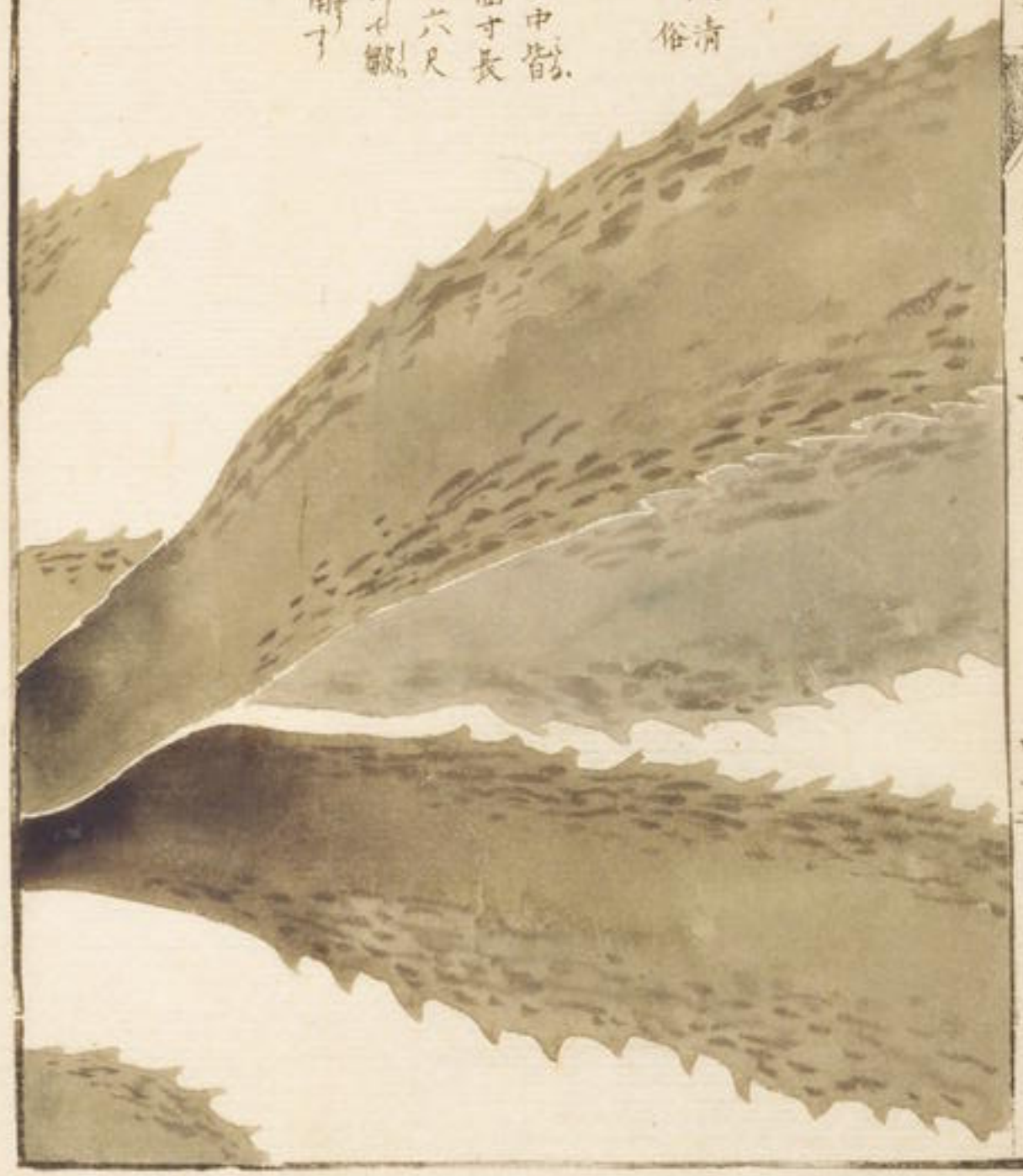
諸國の海中に産し勢列の産むらし上品なり濶さ四五寸長さ三尺許り薄くして味ひ良し

一種

あらめ

黒菜 清俗

諸國の海中皆あり幅三四寸長き物ハ五六尺餘黒色みて皺あり食用す



昆布

こぶ

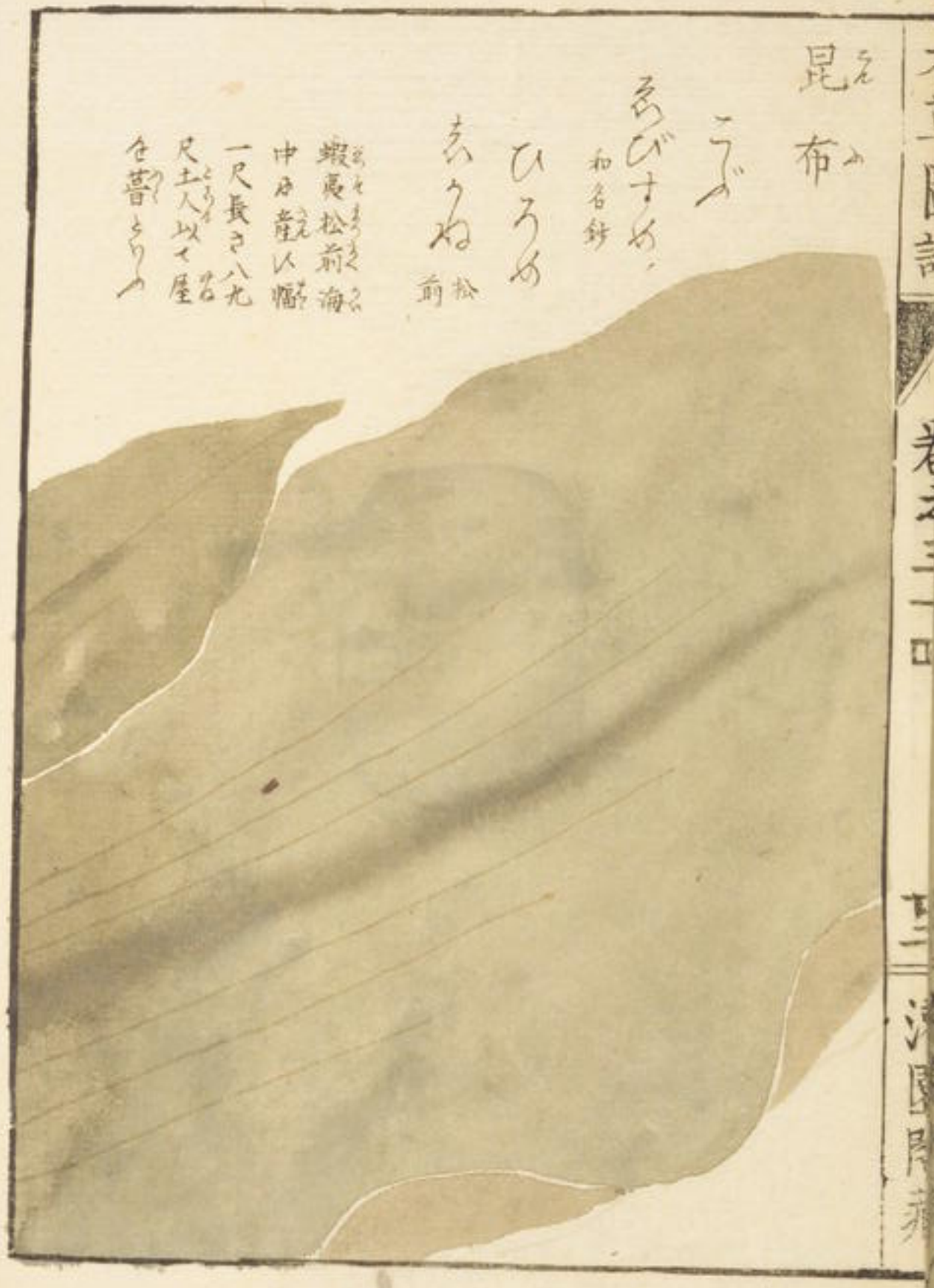
えびすめ

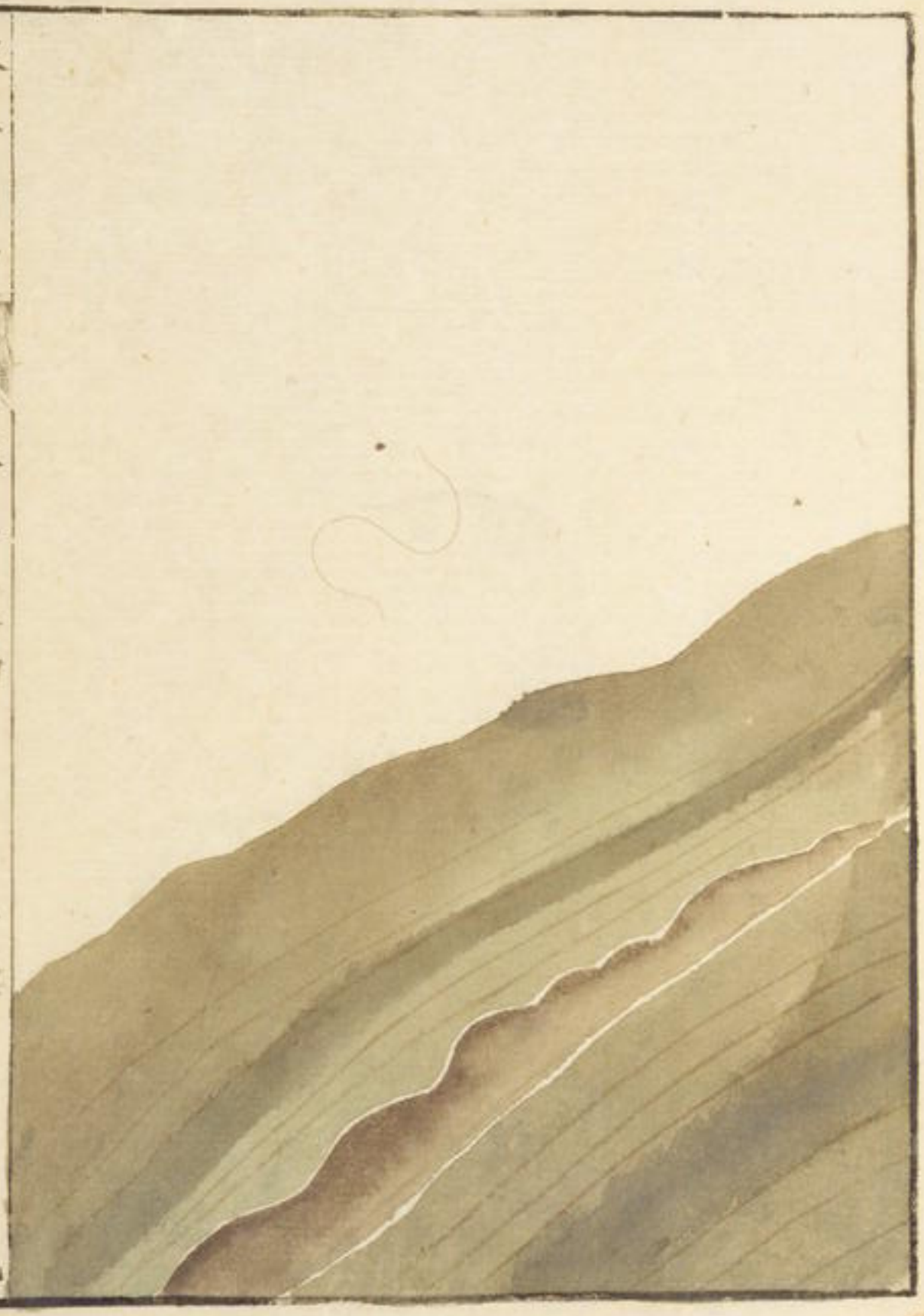
和名鈔

ひろめ

えうね　松前

蝦夷松前海中に産し幅一尺長さ八九尺土人以て屋を葺とりの





越王餘算

うみやなぎ

うみかんざし

さぎのそうめん

越王竹　南方草木状

綱目圖ある處の物は和産なし今此に載る物は附録時珍說所ろの沙箸なり諸國の海中に生じ小なる物は二尺大なる物は五六尺蚯蚓つゝに似て肉なり内に骨の如き物なり本末尖りて灰白色なり水中に直立し影を見音を聞くときは忽ち縮て泥中に入る採得へからず是全く動物にして海草の類にあらず

海底の石上に生ず形小樹の如し質堅く
漆のごとし皮に白き斑あり大なる物は五
七尺なり是弘景如栢と云物なり

一種

うみやなぎ

一種

白色にして細骨の如き物

一種

うみまつの小なる物

皮は赤れ
中心黒色と

一種 うこしまつ

枝幹連理ありて羅網の如く扁く是藏器説に作交羅紋といふ物なり

一種

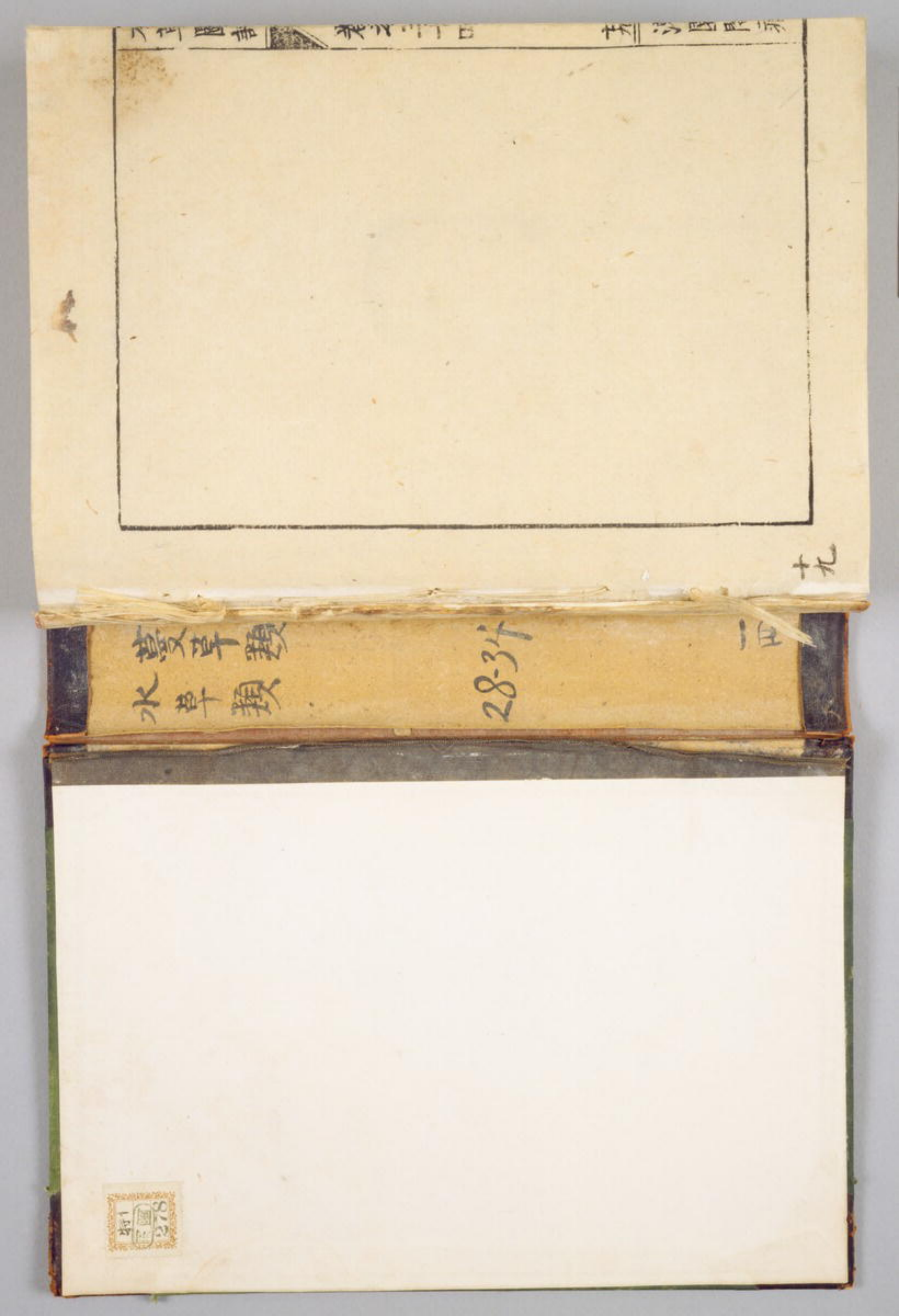
イラキヤリ
さんご
うい
さんご

一種

勢州の產に
黃色の物なり

質軟くうこまの
に似て肥大深紅
朱紅色なり

水松

みる

形狀松蘭に似て肥大
にして綠色軟かなり食料
とし又薩州にてなりこれを
呼物あり三四尺にして形も同じ